



ともに またえ みがき のびる

9月号 発行日
令和4年9月12日

TEL:69-2004

FAX:65-5018

E-Mail:kawanishi-e@school.miyoshi.hiroshima.jp, URL: http://www.miyoshi-kawanishi-e.hiroshima-c.ed.jp/

今年度も開催“ウォーターランド川西「タベのつどい」”



夏の行事「ウォーターランド川西『タベのつどい』」を、8月6日（土）の18時30分から開催しました。

今年度は、数年ぶりに「川西音頭」を取り入れました。踊り方を知っている方はほんの数人で、参加者の多くは、その方を見ながら踊りました。

その後、児童は、川西保育所の園児が作った灯籠と一緒に、平和への願いを込めて美波羅川にそっと流しました。

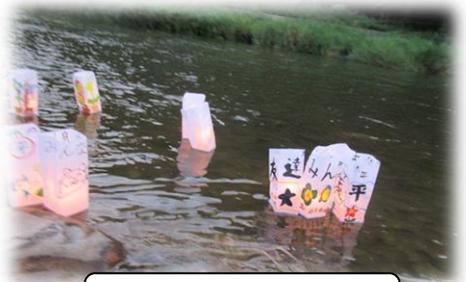
最後は、校庭でナイトシアター。第76回毎日映画コンクールアニメーション映画賞受賞作品『岬のマヨイガ』を鑑賞しました。

開催にご尽力くださいました川西自治連合会の皆様、体育振興会の皆様、地域や保護者の皆様に、心より厚くお礼申し上げます。

川西音頭



灯籠流し



8月5日（金）、平和学習～中本弘子さんから聞き取り「集団疎開」

当時、川西国民学校の5年生で、疎開児童と机を並べていた中本弘子さんは、次のような内容のお話をしてくださいました。

終戦の年、1945年4月、広島市の袋町国民学校の3～6年生74名の児童が、川西村に集団疎開で来ました。

善立寺で寝起きし、風呂は近所の民家で、食事は三度とも学校でしていました。食事と言っても、十分な食べ物は無く、カエルやヘビを捕まえて食べていた子もいました。

親元を離れた寂しさや空腹感に耐え切れず、夜中に逃げ出し、広島市へ向かおうとした児童もいました。その中には、広島市で原爆の被害に遭い、命を落とした疎開児童もいました。

今を生きる川西小学校の皆さんには、夢をもって力強く生きてほしいと思います。

中本さんのお話に子供たちはじっと耳を傾けていました。子供たちはどう受け止めたのか、感想文の一部を紹介します。



せんそうのとき、かえるやへびをたべていたのにびっくりしました。おとうさんとおかあさんとはなれたらかなしいです。せんそうは、かなしいなどおもいました。
(低学年)

「戦争時は雑草も食べていた。」と聞いたことはありますが、へびなども食べていた事を知って、その時代に生まれた子供は辛かったと思いました。自分は夢を持ち、大きく成長していきたいです。
(高学年)

～夏休みの足跡～



【夏休み作品展】

図工室には、夏休み中に児童が作った力作あり、アイデアありの作品がずらりと並んでいます。

身の回りにあるものを利用して手作りした作品が多く、とても良いことだと感心しました。



【3年ぶりの夏休みのプール開放】

8月上旬、PTAによるプール開放があり、3年ぶりに、プールサイドの棚に「命札」（写真左）が並びました。

8日間で述べ154人、1日平均19人の小・中学生が利用し、真夏のプールを楽しみました。



【8月21日（日），PTA環境整備作業】

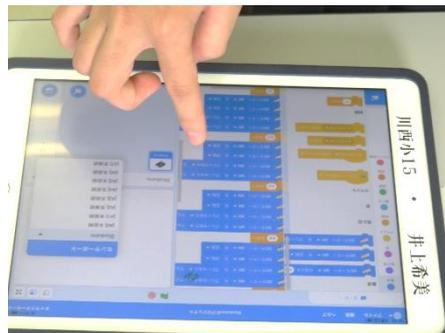
保護者の皆様にも草刈り、草取りや植木の剪定等に汗を流していただきました。

おかげで、さわやかな運動場や植木で2学期を迎えることができました。ありがとうございました。

小学校・高等学校連携教育～6年生プログラミング教室～

今年度も小学校6年生を対象に、プログラミング教室が開催されました。

9月2日（金）、6年生は、神杉小学校の6年生と一緒に、県立三次青陵高等学校の先生や生徒から、プログラミング的思考について体験型学習で学びました。



ロボット車を、障害物を避けて目的地に向かわせるプログラムをiPadで組みました。「何秒走らせると何cm前進するはずだ。その後、何秒片輪だけ動かせば何度回転させられるはずだ。」と筋道立てて考えました。予定通り動かない時は、原因を探り、改善し、最後には目的を達成しました。

☆本格的導入「小学校プログラミング教育」☆

「小学校学習指導要領」（文部科学省）には、各教科の指導の配慮事項の一つに「児童がプログラミングを体験しながら、コンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身につけるための学習活動を計画的に実施すること。」と、記されています。

その実現に向け、塩町中学校区内の小学校と高等学校が連携してプログラミング教育を進めています。